

令和2年度 1年「総合的な探究の時間」

6月10日（水）6校時に、本校OBの佐藤一夫 湯沢市副市長をお招きして、『湯沢市の現状と今後の展望について』の講話をしていただきました。



第2次湯沢市総合振興計画をもとに、湯沢市の特徴や進めている施策、副市長の思い等についてお話していただきました。

探究活動『湯沢市を知る』を始めるに当たり、この講話で実社会、実生活をより身近に、自分事として捉えることができました。また、講話を参考に、湯沢市がどのような市になるのが理想か、理想に近づくためにどのような分野を探究していきたいかといった、今後の探究活動の方向性について考えました。

以下に、生徒の感想等を一部ご紹介致します。

【湯沢市の現状について、講話を聞いて感じたこと、考えたこと】

- 湯沢市が他県や他国と様々な交流をしていることや、除雪、防犯、交通安全などに力を入れていることを知り、よりよい町にするために自分に何ができるかをこれからの活動で考えていきたいと思った。
- 人口減少をなくすのは無理だとしても、どれだけゆるやかにできるかが大切だと思った。今回の話を聞いて、人口減少のつらさが分かったのと、市や県と市民が積極的に関わることが大切だということを知った。
- 少子高齢化が進んでいるけど、「人口が少なくなっても、その地域で安心して暮らせる」を目標としていることを初めて知って、いろいろな事業を考えてくれているんだなと感じた。

- 横手から通っていて思うことは、町全体で盛り上げていこうという活気が感じられるのが湯沢の魅力ということ。現状や課題は横手とそこまで違いはないから、これからの探究に大きな不安はなくなった。
- 今の湯沢市には、これから考えていかなければいけないことや、これからも大事にしていかなければいけないことがあることが分かった。特に大きな課題は人口減少だが、これはどうにもできないことだと思った。だからこそ、その中でどう湯沢市を活性化していくかが最も大切な点であると思う。また、湯沢市は、国内でも誇れる地熱の町であったり、ジオパークなど豊かな自然がたくさんあったり、魅力がたくさんある。これらを後世に伝えていき、1人でも多くの人に「湯沢市に行きたい！」と思ってもらえることが大事だと思った。私たちにもできることがたくさんあると思うので、湯沢から離れていた人に戻って働きたいと思ってもらえる町を作っていきたい。

【湯沢市が今後どのような市になるのが理想ですか？】

- 地熱発電などのエネルギーや湯沢市の特色を活かした豊かな市
- 職場やお店がたくさん増え、大学に通うために一度県外に出た学生がまた戻ってきて栄える市
- 人口増加は難しくても、少しでもたくさんの人に湯沢市の魅力を感じてもらい、移住・定住する人が少しずつ増えてくる市
- 湯沢から離れたときに、湯沢っていいなと思える街
- 医療従事者が多く、コロナのようなことが起こっても、病院を受診しやすい
- 高齢者も現役世代も子供たちも、みんなが心地よく毎日を過ごせる、市民から愛される市
- 湯沢市内のバリアフリーを整備し、みんなに優しい市
- 住民1人1人へのサービスが充実した、男女や老若が関係なく安定した生活を送ることができる社会を、湯沢市のすべての住民の共創によって実現し、日々発展していく市になることが理想です。だからといって、都会のように発展したまちづくりを考えるだけでなく、周りのすばらしい自然や資源を無駄なく、持続可能な状態で生かしていける市になってほしいです。